

ウェアの整備などを行っています。インターネットの普及とあいまって、現在ではこれらのデータは世界中の太陽研究の標準データとなっており、多くの論文に使用されるようになってきました。

★シンポジウムを開催するにあたり、独立行政法人日本学術振興会（JSPS）から助成をいただきました。また、三鷹や野辺山の事務関係者の方々にはいろいろお世話になりました。特に、国立天文台が法人化して最初の国際シンポジウムであり、さまざまな問題点が見えてきました。今後の国際シンポジウム開催にあたって参考にしていただければ幸いです。



▲こじんまりとしていた分、密度の濃いシンポジウムとなりました。



## 「第2回VERAユーザーズミーティング」報告

廣田朋也（VERA観測所）

2004年11月8日から9日にかけて、国立天文台三鷹キャンパスにて「第2回VERAユーザーズミーティング」が開催されました。参加者は58名、発表は口頭が25件、ポスターが15件あり、活発な議論が行われました。

初日は主にVERAのシステムの現状、昨年度から行われているVERAによるプロジェクト観測や各種試験観測の結果などが報告されました。昨年度の第1回ユーザーズミーティング以降に受信機など各種性能の向上、相関処理から解析までの処理手順の確立が進められ、安定したシステムでの観測が可能になっていることが報告されました。一方で、高精度な位置天文観測を行うためには相関処理ソフトの精度をさらに向上させなければならないという問題が報告され、今後の課題となっています。

2日目午前は、昨年度から始まった試験的共同利用観測の結果や問題点について、今年度の共同利用観測のあり方についての報告や議論が行われました。昨年度の試験的共同利用観測では、位相補償による微弱天体の検出など、一定の成果が出つつありますが、位相補償の解析方

法のマニュアル整備、VERA観測所スタッフによるユーザーのサポート体制など、今後改善すべき項目が提案されています。

今回のユーザーズミーティングでは、ポスター発表の件数が多かったため、2日目午後の後半は1時間ほどポスターセッションを設けました。VERAのプロジェクト観測、試験的共同利用観測の成果や、関連する技術開発についての発表がありました。

最後に、2日目午後はVERAと他のプロジェクトとの連携についての議論が行われ、大学連携事業、光結合VLBI、東アジアVLBIネットワーク、セレーネ計画、VSOP2計画の紹介、各プロジェクトからのVERAに対する要望などが提案されました。

今回のユーザーズミーティングでは、昨年に比べて観測成果の報告が増えたためか、全般的により多くの参加者が興味を持っていたように思えます。特に、ポスターセッションで熱心に議論が行われていたことが印象的でした。

「第2回VERAユーザーズミーティング」のプログラムと講演内容については、VERAのホームページで紹介されています。VERAのシステムについても、2004年度VERAステータスレポートとしてまとめられ、同じくVERAのホームページで閲覧可能となっています。また、今年度の試験的共同利用観測の詳細についてもホームページに掲載されています。ぜひご覧ください。

●ホームページ：<http://veraserver.mtk.nao.ac.jp/index-J.htm>の「共同利用」のページから。



▲ポスターセッションの様子。